

教育だより



平成22年度

各小中学校の目標と取り組み

今月号では、平成22年度の各小中学校の学校教育の目標や取り組みについてお知らせします。問い合わせ 学校教育課(内線5525・5526)

三芳小学校

校長 岸浪 信敬



まなびあいの教育で、できる楽しさ・学ぶ喜びのあふれる学校をめざして
三芳小学校の教育目標
・ルールをまもる子
・チームワークをつくる子
・ベストをつくす子
昨年度、開校120周年事業を終え、本年度も「全ての教育は子どもたちのために」を合言葉と

し、教職員一丸となって教育活動に邁進してまいります。
特に①学習規律を徹底させた学力の向上、②「三芳小よい子の一日」の下、基本的生活習慣の確立、③道徳教育を中心とした心の教育の3点を本年度は学校経営の重点に置き、保護者や地域の皆様のご協力を得ながら努力していく所存です。
子どもたち一人ひとりの個性を生かし、豊かな心をはぐくめるよう、常に教師自身が学ぶ姿勢をもち、児童が意欲的に取り組む授業・人とのかわかりがみられる授業の実践に励み、子どもたちができる楽しさ、学ぶ喜びを味わうことができる授業づくりに全力を挙げて取り組んでまいります。

藤久保小学校

校長 木田 正美



あじさつと花と笑顔あふれる藤久保小
本校は、豊かな知性と感性を育む三芳教育の実現をめざし、「やさしく、かしく、つよい子」を学校教育目標と定め、心身ともに、たくましく生きる子の育成に取り組んでいます。
子どもたち一人ひとりがすなおな心をもち、笑顔があふれる学校

上富小学校

校長 神谷内 守



花と緑の上富小学校
本校は「にほんの里・百選」に選ばれた、自然豊かな上富地区を学区とする、開校39年目の学校です。「清く・かしく・たくましく」を学校教育目標に定め、全教

唐沢小学校

校長 山形 康典



よく考える子・思いやりのある子・たくましい子
今年度は次の4点を重点目標に位置づけ、推進してまいります。
○確かな学力をはぐくむ授業の推進

○豊かな心を育てる教育の推進
健康安全と健やかな体づくりの推進
○開かれた学校づくりの推進
また、職員と児童の合い言葉をベスト・ルール・チャレンジとしました。ベストは「全力で学習する(知)」こと。ルールは「きまりを守る(徳)」こと。チャレンジは「挑戦する(体)」ことを意味しております。

具体的な手立てを講じ、本校教員が一丸となって推進し、学校教育目標(「よく考える子・思いやりのある子・たくましい子」)の具現化を図ってまいります。児童一人ひとりの能力や態度の伸長を目指し、保護者の皆様、地域の皆様に信頼される学校となるよう取り組んでまいります。

竹間沢小学校

校長 高根 豊



ふるさとを愛し・ふるさとで学ぶ
本校の教育目標を「やさしく・かしく・たくましく」と定め、

三芳中学校

校長 藤本 直己



児童一人ひとりが心身共に健康で健やかに成長するために「教育に関する3つの達成目標」に取り組む、「知・徳・体」の調和のとれた教育を推進します。
今年度も三芳町教育委員会の委嘱を受け、「地元ふるさとを愛し、ふるさとで学ぶ、健康で心豊かな児童の育成」をめざします。
昨年度からの取組である「習得」と「活用」に視点をおいた効果的・効率的な指導計画、指導方法を基盤に、算数科の授業を通して、日々の授業の充実、基礎・基本の定着と「活用」場面を意識した授業実践に取り組んでまいります。

生徒のより良い成長を願って

本校は、自他を大切にし、夢や目標を持ち、その実現に向け努力する生徒を育成するため「○学ぶ生徒 ○貢献する生徒 ○優しい生徒

三芳東中学校

校長 小野 勝弘



誇りと絆の東中学校
誇りあふれる東中学校を合い言

づくりを進めています。
今年度も、町教育委員会の研究委嘱を受け、「確かな読みの力を育てる国語科の指導」に取り組んでまいります。日々の授業の充実を通して、国語力の育成に努め、基礎・基本の定着を図ります。
謙虚さと向上心をもち、子ども

職員が一丸となって、児童に寄り添った教育を推進します。
本年度の主な取組としては、児童の基礎的・基本的な学力の定着を図ると共に、児童のコミュニケーション能力の向上を目指し、国語科を中心とした学校研究に取り組んでいます。

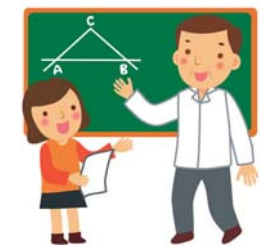
学ぶ笑顔の元気な学校

藤久保中学校

校長 山川 博



業にすばらしい伝統と校風をもつ学校です。生徒は三芳東中学校に誇りを持ち、3大行事で学級の絆を深めます。
●学校教育目標
・心豊かな生徒
・意欲的に学ぶ生徒
・たくましく生きる生徒
●目指す学校像
「生徒の夢を育み、その夢の実現に向け全力で支援する学校」
●目指す生徒像
「自らの意志と能力で自らの道を切り拓いていく生徒」
本校は、規律ある学校生活を表現することに心がけています。「時を守り、場を清め、礼を正す。」を基本に、集団生活を向上させます。そして、心と生き方を育てる体験学習を実施してまいります。



本校では「学ぶ笑顔の元気な学校」を目指す学校像とし、学校教育目標の「自ら考え進んで行動する生徒」の育成に努めています。
授業中の集中はむろん四季折々に美しい雑木林を臨む校庭や体育館では、生徒が体育や部活動に励み、校内では挨拶と笑顔に満ち、清掃時は丁寧にほうきを使い、隙間なく雑巾がけをしている。こうした毎日の積み重ねの中で、生徒一人ひとりが自信と誇りを持って藤久保中学校を保護者や地域の人々と力を一つにして実現していきたいと思えます。
そして教職員一人ひとりが「協働」「研鑽」「連携」の三つの視点を持ち、①自ら考え意欲的に学ぶ生徒、②心豊かで思いやりのある生徒、③健康でたくましく生きる生徒の育成に努めてまいります。

図書館だより

中央図書館 ☎258-6464
火～金 10:00～19:00 土日 10:00～18:00
竹間沢分館 ☎274-1722
火～日 11:00～18:00



6月28日月～7月5日月蔵書点検のため全館休館

6月の予定

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

【中央図書館】
くりくらタイム (絵本・紙芝居・手遊び等)
第1・3金曜日 (保護者同伴)
11:00～11:15 6ヶ月～1歳
11:20～11:40 2・3歳～
第2・4火曜日 16:00～16:30 3～8歳
としょかん・くらぶ会員制一
(読み聞かせとブックトークで本に親しむ会)
10:10～11:00 1・2年生
11:10～12:00 3～6年生
かにかにこそこそ (第3水曜日)
10:00～12:00 大人対象
※昔話を覚えて語る練習をしています。

【竹間沢分館】
くりくらタイム (絵本・紙芝居・手遊び等)
第4火曜日 11:00～11:30 1～4歳
スイミーおはなし会 (絵本・紙芝居・ブックトーク)
第4木曜日 16:00～16:30 4歳～小学生

【地域文庫のお知らせ】
(児童書の貸出、お話し会など)
つくし文庫・毎月第3土曜日 10:00～12:00
場所/上富1区第1集会所にて
あらた文庫・毎火曜日 15:30～18:00
場所/荒田自宅にて
(藤久保536-4 三芳東中学校近く)



【一般書】『雨の日のかんたんあそび』毎日の保育をもっと楽しく！

頭金多絵書
ナツメ社 2009年3月発行
請求記号 376トウ
雨が降ったら様々な形の容器を外に出し、雨がどのくらいたまるか調べる「雨さじ、あつまれ！」や、雨水で作る「にじみ給あそび」など、子どもの五感が研ぎ澄まされるあそびを紹介。



【一般書】『親子でくー社会科見学ガイド』楽しく、ためになる！

社会科見学隊編
扶桑社 2008年3月発行
請求記号 G3
町を洪水から守る地下の神殿(首都圏外郭放水路)、甘い体験が楽しめる「ロケット浦和工場」、音の出るしくみが分かる「ヤマハピアノ工場」など、雨天でも楽しく学べる44カ所を紹介する。



【児童書】『あめぼったん』

ひろかわさこ著
アリス館 1999年6月発行
請求記号 HEあ
「あめあめぼったん、あめぼったん。はっぱのうえに、あめぼったん。」楽しい雨音に誘われて、女の子が散歩に出かけます。カタツムリ、ミミズも嬉しそう。雨が待ちどほしい絵本。



【児童書】『しずくのほろけ』

マリヤ・テルリコスカ著
うちだりさくやく・ポフダン・ブナコエ福音館書店 1996年5月発行
請求記号 風車TE11ンク
主人公は、バケツから飛び出した水のひたひた、土で汚れた身体をきれいにしていく。洗濯屋や病院を目指す、途中でやせ細り、水蒸気に変身。雨が降るしくみも学べる科学絵本。

図書館の本棚より「雨の日が楽しくなる本」別冊紹介中

健康スポーツライフ

このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。
問い合わせ 総合体育館内 ☎258-0311

4月より総合体育館は指定管理者「東京ドーム・トルツリーグループ」による管理運営に移行しました。今月よりこのページの連載も再開します。どうぞよろしくお祈りします。



【館長 牧野】



【副館長 佐々木】

フィットネスルームのご案内

総合体育館では、フィットネスクラブ運営などで培った指定管理者のノウハウにより、健康づくりのお手伝いをいたします。豊富な知識と経験を持つトレーナーやインストラクターが、万全の態勢でサポートいたします。ぜひご利用ください。1回300円(2時間まで)
7月より、初回講習会が随時受けられるようになります。予約などは不要です。運動できる服装・上履きと、本人の確認できるものをお持ちください。



教育トピックス

1学期も2か月が過ぎ、うららかな陽気のもと、各小中学校の校庭や体育館には、元気に走り回る子どもたちの姿が見られます。
子どもたちにとって変化の激しい現代において「健康な心体」は、「確かな学力」「豊かな心」と並んで、「生きる力」の大切な要素の一つです。
藤久保小中学校では、体育の授業の中にダンスや各種のジャンプ、ブリッジなどの補強運動を取り入れています。毎時間続けることで、まるで貯金でもするかのようになり、児童の体力が少しずつ向上していきます。また、授業規律を徹底することで無駄な時間を削り、限られた45分という授業時間の中で運動量を確保しています。体育の時間が終了したときの、真っ赤な顔と流れる汗と満足した笑顔がその証です。その結果、体育の授業に取り組み意欲が増え、外遊びをする児童が増えました。
また、三芳小中学校では、月1回の体育朝会のプログラムを工夫し、行進などの集団行動やなわとび、マラソンなどを取り入れています。集団行動は、安全にかつ効率よく運動するために不可欠な要素です。きびきびとした集団行動ができると、気持ちも引き締まります。なわとびで



各小中学校の校庭や体育館を走り回る子どもたちの姿は、町の未来を創る子どもたちもまた、体力を高める取り組みが順調に行われている証です。

は、大なる字連続とびの記録に挑戦するなど、大会形式を取り入れて意欲を高める。「いまだ！入って！」友達へのアドバイスが聞こえます。回し手の児童もみんなが跳びやすいうつと気を配っています。「…35！36！37！」跳んだ回数数を数える声もそろって運動する姿を心から楽しんでます。その結果、休み時間にもなわとびを楽しむ姿が増えました。
他の小学校でも、逆上がり教室を実施したり、一人ひとりの走法に合った練習の場を用意したりして児童生徒の体力向上を図っています。

技の文化財

第三回 竹籠屋

竹製品は、家庭用品から農作業などの仕事用に至るまで生活に欠かせないものでしたが、三芳においては長い間竹籠屋はなく、志木や沢から来る行商や店売りの物を買ったり、大量に必要なときには竹籠屋を呼び寄せた家で作ってもらうこともありました。町内に竹籠屋が店出するののは、昭和三十年代になってからのことでした。

町内の竹籠屋は、藤久保の閑菜三郎さんの一軒だけでした。閑さんは、富士見市水子の伯父のもとで修業を積み、昭和三十三年に藤久保で竹籠屋を始めました。藤久保に来た理由は、三芳は農業地帯にもかかわらず竹籠屋がなかったことと取引先の農家が多かったからです。製作していたものは、各種のカゴ・ザル、クマダ、竹ホウキなどがあり、このほか客の要望に応じて何でも作りました。同じ竹製品でも地域によって大きさや形によって異なり、閑さんは客が来るとまず住んでいる場所を尋ねると言います。例えば、場所を尋ねるに使う大きなハチホン籠やロップン籠は、斜面地の落ち葉を掃き集めていた竹間沢が多く、荷車を使って遠くの雑木林に落ち葉を掃きに行っていた藤久保は、荷台にうまく乗るように昔の低い丸形と小判形の二種類



最後のハチホン籠を作る閑さん。大型のカゴ作りには、竹を強く締める力が必要で、重労働でした。